

## 2011（平成23）年度 次世代 地理教育支援助成

### 富士山・レーニア山教育交流プロジェクト 第2回教員交流国際ワークショップ

# 国際協働による山を題材にした教科横断型の授業開発

沼津工業高等専門学校 准教授 佐藤崇徳

## I. 目的

富士山・レーニア山教育交流プロジェクトは、これまでに築かれてきた両山の友好関係を礎にして、日米両国の教員の国際協働によって、山を題材とした授業開発に取り組むものである。

富士山麓の静岡・山梨の学校では、総合的な学習として「富士山学習」に取り組み、多彩な活動が行われてきたほか、学校や教育委員会などが企画した様々な体験学習行事も実施されている。また、個々の教員レベルにおいても、授業の中で富士山を教材として利用する実践が行われている。

一方、米国のレーニア山では、政府機関である国立公園局が学校教育にも積極的に関わり、教材開発や教員研修も行っている。国立公園という地域資源を活用した魅力的な授業が学校で行えるようにと、国立公園当局が学校教育に非常に積極的に関わることは、日本では見られない点である。米国の教員や国立公園当局などとの交流を通じて、富士山麓地域での教育にフィードバックできることは少なくないと期待される。

## II. 経過

レーニア山 (Mount Rainier) は、米国ワシントン州にある標高4392mの火山である。シアトルの南東約100kmに位置し、ワシントン州のシンボルとなっている。現地の日本人・日系人からは「タコマ富士」と呼ばれてきた。レーニア山一帯は国立公園に指定され（マウントレーニア国立公園）、美しい自然が保全されている。

富士山とレーニア山の間では、姉妹山として交流が行われている。その歴史は古く、1935年～1936年には友好の証として両山頂の石が交換された。交流はいったん途切れたが、1994年からは毎年、日本の学生や一般市民からなるボランティアがレーニア山を訪れている（早稲田大学～日本自然環境ボランティア協会）ほか、2003年には富士山クラブがマウントレーニア国立公園との間で姉妹山交流計画を締結した。2007年にはグラウンドワーク三島の手で、富士山で使われているバイオトイレがマウントレーニア国立公園に設置されている。

富士山とレーニア山との交流が進むなかで、マウントレーニア国立公園では、これまでの教育活動の蓄積をふまえて、姉妹山である富士山も題材として取り入れ、国際理解教育も視野に入れた授業開発に日米両国の教員の国際協働によって取り組むプロジェクトを企画した。

2008年にマウントレーニア国立公園において両国の関係者による準備会合が開催された。その後も日米間で協議を続け、内容や期間の再調整を経て、両国の教員が参加する授業開発のための国際ワークショップを2回（レーニア山麓と富士山麓）開催し、両国の教員による意見・情報の交換、人的ネットワークの構築を図ることとなった。第1回のワークショップは、2010年の夏にマウントレーニア国立公園で開催した。日本からは6名の教員が参加し、模擬授業や現地見学などを通して、レーニア山を題材にした様々な教科での教育活動について学んだ。その成果をさらに発展させるべく、第2回のワークショップを2012年の夏に富士山麓地域で開催することになった。

## III. 成果

日本での開催となる第2回ワークショップは、2012年8月1日（水）から5日（日）までの日程で実施した。参加者は、日本からはプロジェクトのメンバー11名、米国からは教員6名と国立公園職員3名、国立公園局と連携して教育活動を行っている国際NGOマウンテン・インスティテュートの職員1名が参加した。

ワークショップでは、日本の教員らが富士山を題材にした教育実践や新しい提案を発表した。その際の資料として、それらをまとめたLESSONプラン（指導案）集を作成した。これは個々の授業等について、当該授業の目標、授業内容、準備物などを記したものであり、マウントレーニア国立公園で作成されているLESSONプラン集の内容構成を参考に、日本語・英語の二カ国語版を作成した。学会・研修会などにおいて指導案を用いて先進的な授業実践が紹介されることは多いが、英語版も作成して外国の教育関係者を巻き込んでの議論を可能にした例は少ないと思われる。LESSONプランを執筆した教員の

みならず、その翻訳に携わった日米両国のメンバーの尽力により、二カ国語版のレスンプラン集を作成できたことは、ワークショップにおける発表・議論をスムーズにさせただけでなく、今後もこうした授業開発について国を超えた議論を発展させていく上での資料とすることができ、その意義は大きいといえる。

収録したレスンプランを以下に列記する。「中規模攪乱と植物の多様性の維持について ―フジアザミー」、「富士河口湖町自然観察教室 一富士山五合目から三合目の自然観察―」、「富士河口湖町自然観察教室 一青木ヶ原樹海と溶岩洞穴―」、「上吉田の歴史をテーマにしたフィールドワーク」、「富士山の姉妹」、「富士山授業の学際的アプローチで山や地球環境と共生する社会の担い手を育む―かぐや姫伝説から、やきそばの町、環境問題まで―」、「『iPad地図帳』を用いたフィールドワーク」(以上7本)このように地理・歴史から生物・地学まで幅広い教科・分野にまたがって、富士山を題材にした授業の事例を集めたものとなった。

ワークショップは、静岡・山梨の両県にまたがる富士山麓地域で、会場を移動しながら、現地見学等をふんだんに盛り込んで実施した。1日目は、静岡県富士市内で開会行事の後、バスで同市内および富士宮市内を巡検した。海岸(田子の浦)では津波対策から百人一首まで幅広い内容が話題になった。竹採公園にも立ち寄り、当地の伝わるかぐや姫伝説と富士山との関わりや、その物語を高校生が英訳した上で絵本を作成した教育実践について紹介があった。このほか、富士市内の湧水地帯では富士山がもたらす湧水と人間生活との関連について、また、富士塚(富士市)や浅間大社(富士宮市)では富士山と信仰・民俗文化との関係について、日本の教員から説明がなされた。夕刻には、見学内容に関連するレスンプランの発表と議論が行われた。翌日以降も、現地見学の後、それに関連するレスンプランの発表と議論を行うというプログラム構成をとった。以下、主な見学内容のみ簡単に記す。2日目は富士山富士宮口五合目から宝永火口まで歩き、地学・生物学の観点から専門家の解説を受けながら見学した。3日目は山梨県側に移動し、富士吉田市内で富士講の御師の家などを見学した。4日目は富士河口湖町主催の小・中学生を対象とした教育プログラム「自然観察教室」に同行し、富士山を舞台にした野外教育の実際の様子を参観した(写真)。

最終日の8月5日には、これまでの成果の総括として

#### 【成果物】

- ・富士山及び山麓地域を題材にしたレスンプラン集
- ・シンポジウム「富士山を題材にした教育」要旨集

上記2点はいずれも「富士山・レーニア山教育交流プロジェクト」のウェブサイトにて公開している。



写真 富士河口湖町自然観察教室の様子

「富士山を題材にした教育」というテーマでのシンポジウムを山梨県立富士ビジターセンターで開催した。ここでは日本の教員らによる報告だけでなく、マウントレーニア国立公園における教育活動の取り組みについて同国立公園の担当職員から紹介があったほか、米国の高校で日本についての学習の一環として、地元のレーニア山と対比させるかたちで富士山を取り上げた授業実践が、実際にその授業を行った米国の教員より報告された。学習成果として生徒が作成したスライドショーも紹介されたが、このような生徒の主體的な活動も重視する米国での教育実践はたいへん興味深いものがあった。

ワークショップを通じて、米国の教員らからは様々な意見や質問が出された。とくに富士河口湖町自然観察教室は、児童・生徒が学ぶ様子を実際に見ることができたこともあって、非常に高く評価された。こうした外国の教育関係者からの視点で日本の教育活動について批評を受ける機会は貴重であるといえる。

#### IV. 今後の課題

本プロジェクトは当初の計画通り2回のワークショップを開催し、一定の成果を上げることができた。国境を越えた教員同士の交流の成果を日米両国での教育現場にフィードバックさせていくことが、本プロジェクトとしての今後の課題である。また、このような取り組みを今後も継続していくための確固たる体制をいかに作っていくかが大きな課題であるといえる。そのためにも、教員が外国の教員と交流することで日本の教育改善にどのような効果があるかを、具体的に示していくことが求められるといえよう。